

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2015.8.29)

河口無線で開催されたノア扱いのソナスファベール「[ストラディバリ・オマージュ](#)」の試聴会に行ってきました。

<使用機材>

使用機材は下記のとおりで超ハイエンドといえるものばかりです。



スピーカーシステム ソナスファベール STRADIVARI Homeage (RED)
¥6,048,000 (ペア)



CD プレーヤー ブルメスター 061 ¥2,160,000



プリアンプ ブルメスター 035 ¥1,922,400



パワーアンプ ブルメスター 911mkIII ¥4,104,000

<試聴経過>



当日のセッティング



磁気浮上インシュレーター
NeoFlex

試聴が始まる前から参加者持参の CD がかけられており、使用機材の説明から始まりました。ストラディバリ・オマーージュは 2004 年に発売され、その間仕様変更もなく、2015 年末を以て受注終了となるので、今回がじっくり聴ける最後の機会とのことでした。使用機材は前述のとおりですが、ケーブル類はストラディバリ・オマーージュの内部配線と同じラボラトリウムの製品が使われていました。

最初に、女声ボーカルとベースの組み合わせ、ついでハイドンの弦楽 Q「雲雀」、ヴァイオリンとギターデュオなどがかけられていきました。最近のハイエンドの突き刺さるような音はせず、あくまでソフトで艶があり、耳に馴染みやすい音ですであることが分かりました。時として、音の甘さが過剰で生音とは違うのではないかと思わせるところがありましたが、音作りのポリシーの筋が通っています。さらにアメリカのソルベイグの歌がかかりましたが、いかにもアメリカらしい透き通ってとろけるような声が魅力的でした。

ここで新製品の Alto-Extremo 製の磁気浮上インシュレーターの説明があり、CD プレーヤーの下に敷いてみて音がどう変わるかの実験が行われました。なお、パワーアンプについては最初からこのインシュレーターが敷かれていました。

磁気浮上インシュレーターあるなしでビル・エヴァンスがかかりましたが、ベースがぼやけず、ピアノがくっきりとし、ライブ会場ノイズもはっきりとしてきました。このままの状態、サクソ、エレキギター、オーケストラなどが順次かけられていきました。さらに、ラフマニノフの協奏曲、チャイコフスキーの V 協奏曲、タンホイザーの巡礼の合唱と続き、しめくくりは女性ボーカルでした。

時間が経つにつれ、磁気浮上インシュレーターがしっかりと働くようになり、ラフマニノフの協奏曲、チャイコフスキーの V 協奏曲、タンホイザーの巡礼では、当初は若干気になっていた、低域の緩みや音像のぼやけが無くなり、ソロとバックのオケのバランス、ピアノのタッチ、ヴァイオリンのボウイングやヴィブラートの様子などが実に生々しい感じで迫ってくるようになりました。

終了後、参加者の関心を引いたのは磁気浮上インシュレーターのように、ディーラーの担当者に質問が殺到していました。この磁気浮上インシュレーターはネオジウムマグネットの反発を利用したもので、極の間隔を調整することにより反発力を調節でき、器材の位置の重量のアンバランスによる水平のずれをキャンセルできるとのことで、水準器も付属しています。また、耐荷重により三段階の製品が準備されているとのことでした。Alto-Extremo の NeoFlex の情報をネット上で検索してみますと、ノアからのアナウンスは出ていませんが、次のようなサイトの情報がありました。

<http://www.alto-extremo.com/html/statement.html>

<http://www.monoandstereo.com/2011/03/alto-extremo-neoflex-absorbers-review.html>

<http://www.techradar.com/reviews/audio-visual/hi-fi-and-audio/hi-fi-accessories/alto-extremo-neoflex-661639/review>

なお、本試聴会の後、ノアより次のような NeoFlex の発売アナウンスがありました。

http://www.noahcorporation.com/alto-extremo/20150831_NeoFlex_release.pdf

以上